## オプス・デイ属人区 長ハビエル・エチェ バリーアの帰天

オプス・ディ国人区長れば、 12月12日 (月)、グアラカンのでは、 12月12日 (月)の年後9時10の年後9時10の年後9時では、 10のでは、 10の

オプス・デイ属人区長ハビエル・エチェバリーア司教は、12月12日 (月)、グアダルーペの聖母の祝日の午後9時10分(イタリア時間)に帰天しました。エチェバリーア司教は、聖ホセマリア・エスクリバーの2代目の後継者でした。属人区長補佐フェルナンド・オカリスは、司教の亡くなる同じ日に、病者の塗油を授けることができました。

エチェバリーア司教は、12月5日、 軽度の肺感染症のためローマのカン プス・ビオメディコ総合病院に入院 しました。抗生物質による治療を受 けていましたが、3日前に容態が急 変し、亡くなる数時間前に病状はさ らに悪化し呼吸不全により帰天しま した。 属人区の規約が定める通り、属人区 の統治は属人区長補佐フェルナン ド・オカリスが引き継ぎます。ま た、規約の定めにより、オカリス は1ヶ月以内に、新しい属人区長を 選出する選挙総会を招集することに なっています。この総会は3か月以 内に開催され、選挙の結果は教皇に より承認されることが求められてい ます。

ハビエル・エチェバリーア司教は、1932年マドリードに生まれ、この町で聖ホセマリア・エスクリバーと出会いました。1953年から1975年まで、聖ホセマリアの秘書を務めました。1975年からオプス・デイの総代理を務め、1994年に属人区長に選出されました。1995年1月6日、聖ヨハネ・パウロ2世教皇により聖ペトロ大聖堂にて司教に叙階されました。:1

司教の帰天後、総合病院の聖堂では、師の遺体のかたわらで夜を徹してミサが捧げ続けられました。

## 祈り、静寂、一致:オカリス師の言葉

オプス・デイの属人区長補佐フェルナンド・オカリス師は、属人区長の帰天を公表するにあたり、司教の帰天の様子について、「祈り、静寂、一致」に包まれていたと語りました。

また、「パドレの帰天の悲しみに、 22年間に渡り属人区長として示して くださった、愛情と良き模範に対す る感謝の思いが伴っています」とも 語りました。

オカリス師は、エチェバリーア司教の霊名の記念日であった12月3日にパドレ自身がオプス・デイの人々に語った言葉を紹介しました。「あなたがたを支えにしています。私には

皆さんが必要なのです。私はいつまでもいるわけではありませんから。 オプス・デイの属人区長は皆さんの 手の中にいるのです。誰が属人区長 になろうとも彼を支えてくださ い」。

エチェバリーア司教の最後の様子に リース師は次のように ました。「パドレはグアダルーないで ました。「がっていれがいってがいる。 「がってがいってがいってがいってがかってがかってがかった。 であるいまでがいる。 見えは答えました。『ななくないません。 ません。 ません。 などさいますから。」。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/javier-echevarria-kiten/ (2025/12/18)